



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



新しい技術と歯科学について

歯科病院長 榎 宏太郎

先日、盛岡市でデジタル歯科学会に参加させて頂きました。私も、宮崎歯学部長が本学会を設立された頃に、一度、発表させて頂いたことがありますが、その当時から比べて、とても大きな学会へと成長されており、参加人数の多さに驚かされました。この成功は、工学的な技術の進歩を導入して歯科医療を変革したいという設立時からの先生方の、様々なご苦労が実を結んだものと思われる。



また、同じ週には、ポーランド大使館主催の先進的な研究を紹介する日本・ポーランド医学フォーラムにも出席させて頂きました。多くのとても興味ある研究が紹介されており、中には、5階建てのビル棟ごとをシミュレーション・デジタルホスピタルとしてヨーロッパ中から学生を集めて医学教育に活用しているという例や手術中に神経の走行を可視化するプロジェクトなどもありました。

斯様に、工学技術の進歩はとても速く、先進的な臨床や専門教育を社会に供給する上では、欠くことの出来ないものとなりつつあります。では、歯学部として、未来に向かって何をしなければいけないでしょうか？下に例を挙げましたので、皆様もそれぞれの立場でお考えになられて下さい。

1) まず、我々が教えられたことと、現在、教えていることが、本当に正しいことなのかを常に考えること(当たり前のことに対して常に批判的な目を持つこと)

2) もっと楽をする方法がないかを探ること、存在すれば便利なのになあ、と思うものを想像すること(無駄を省き、時間と新たなものを創出すること)

3) 工学など自分の専門ではない領域の研究者と接する機会を出来るだけ多く持つこと(シーズとニーズの出会いを生むこと、歯科以外の学会にも積極的に参加すること)

4) 他分野の人々にも、それはいいね、と言ってもらえるような、夢を語れること(起業や共同開発へのモチベーションを大切に、新たな需要を産み出すこと)

5) 自分達の利益だけでなく、共同開発の相手や一般社会における利益も十分に考えること(Give & Take が成り立つ連携関係を構築すること、大義を見つけること)

いずれにしても、他の分野との交流を持ち、歯科以外の領域から新しい情報を獲得することが重要ではないでしょうか。

そして、そのようなことが可能なのも、実は、大学機関という社会的に信用を得ている場所で、勉強したり働くことの出来る、我々の特権なのです。

夢を持って頑張りましょう。

CBTワークショップが開催されました

共用試験CBT実施責任者 荒木 和之

4月28日(土)に、旗の台1号館5階会議室とPBLルームにおいて、平成30年度共用試験CBTワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から藤澤政紀



先生(明海大学)、森田学先生(岡山大学)をタスクフォースにお招きし、宮崎学部長のご挨拶の後、ワークショップは開始されました。今回の参加者は24名でした。午前中は、CBT全体の解説とCBT問題作問時の注意事項と良問・悪問について、さらには本学の不採択問題についてもレクチャーがありました。午後は、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各自の問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。今回は、参加していただいた各先生方が事前に準備してきていただいたようで、各グループとも大変活発な、かつスムーズな討議が行われ、充実したワークショップとなりました。特に連問をターゲットにしたブラッシュアップでは、昭和大学の強みであるオール昭和(基礎と臨床の連携)を再認識することができました。最後に美島教育委員長から参加者全員に修了証が授与され、参加者は今年度の採択率向上のためのさらなる努力を心に誓い、ワークショップは無事修了しました。



南カリフォルニア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 大竹 開

私は南カリフォルニア大学(USC)歯学部の orofacial pain 科で2週間の実習を行ってきました。海外で実習を行うのは1年生でのPSU以来2回目でしたが、今回はより専門性の高い実習となりました。



実習では主にVirtual Patient(VP)作成と外来見学を行いました。VP作成では orofacial pain にちなんだ患者をイメージし、300近い歯科医師からの質問パターンについて答えを全て作り、診査法や治療方法までを選ぶものでした。作成の際は全て英語での作成だったため、解剖用語や歯科用語などの専門性の高い単語が多く大変な実習でしたが解剖用語や歯科用語の英語を学ぶ良い機会となりました。外来見学では orofacial pain 科の外来のみの見学でしたが昭和大学とは違った雰囲気での外来であり、特に衛生学や放射線学についての考え方は日本とは全く異なるものでした。

最後に今回の実習にあたって、実習を受け入れて頂いた orofacial pain 科の Glenn Clark 先生、実習前から実習中まで様々なサポートをしていただいた補綴科の吉田先生、保険やオリエンテーションなど様々なサポートをしていただいた国際交流センターの皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。



慶熙大学校での選択実習に参加しました

歯学部6年 権 洗眞

4月2日から20日の3週間、韓国のソウルにある慶熙大学校で実習を行いました。自分が韓国人であること、韓国での歯科医療について、日本とどのように違いがあるのかを知りたかったので参加しました。3週間で慶熙大学校歯科病院の全ての科を見学し、2週目には分院である慶熙大学校江東病院にも行くことができました。どの先生方も大変優しく丁寧に説明してくださいました。日本に近い国でありながら、美容大国と言われる韓国の人々の歯科に対する意識や、最先端技術、保険制度の違い、韓国の歯科医事情など、かなり違う面も多く知ることができました。

病院でのコミュニケーション方法は主に韓国語でしたが、専門用語は英語がかなり多かったです。また

英語を話せる先生方がほとんどであり、英語の必要性も改めて認識する良い機会になりました。慶熙大学校の先生方、学生と話すことも多くあり、新しい繋がりを作ることができたと思います。

学生の最後の年に、このように日本以外の国の歯科医療に関わることができ、大変貴重な経験をさせて頂いたと思っております。

最後に、この研修を実施するにあたりご尽力いただきました先生方、国際交流センターの方々に深く感謝申し上げます。



ブリティッシュ・コロンビア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 三橋 あい子

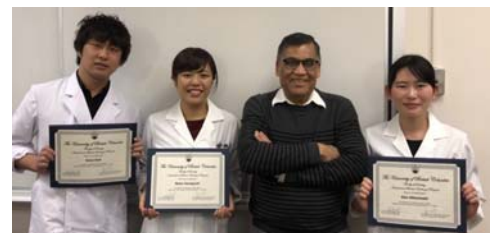


4月3日からの2週間、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)での研修に参加しました。研修は3・4年生の講義の聴講、診療の見学や介助が主な内容で、講義では実際の症例をもとに患者さんへの

治療説明の方法を丁寧に解説するなど、より実践的な講義が行われていると感じました。クリニックでは先生の指示を仰ぎながらではありませんが、すべて学生が治療しており、治療に行き詰っても患者さんは非常に寛容かつ協力的で、信頼関係を結ぶ事がいかに重要かを目の当たりにしました。

また、日本よりも衛生管理に重きを置いているように感じました。どんなに小さな蝕処置でもラバーダム防湿を必ず行い、ファイルやリーマーは1回の治療ですべて廃棄してしまいます。とても良い環境で治療ができる一方で、経済的理由で補綴処置ができなかったと隣在歯が大きく傾斜した患者さんもいました。保険制度が変われば、取り巻く環境も変わりますが、それでも日本の医療は質の高いものだと感じ、日本の歯科医師を誇りに思いました。

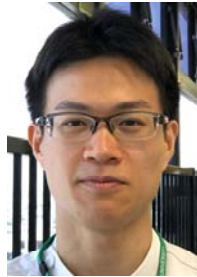
今回の実習では、積極性と自分の意見をしっかりと持つことが求められ、日本では得られない多くの刺激を受けました。支援して下さった先生方に感謝いたします。



東京医科大学病院での選択実習に参加しました

歯学部6年 河合 良太

私は4月3日から20日まで東京医科大学病院の口腔外科・歯科矯正科で実習を行いました。実習期間中は月曜と火曜、金曜は歯科外来を、水曜と木曜は病棟を見学しました。歯科外来では、抜歯のアシストや口唇口蓋裂の補綴治療の見学、顎変形症の患者さん術前検査、頸部郭清術などの術後機能検査などを見学しました。特に印象に残っているのは口唇口蓋裂の乳幼児への Hotz 床の調整です。実際に Hotz 床を初めて目にし、Hotz 床の印象採得のやり方やワイヤーを付与する目的など多くのことを細かく学びました。



病棟では、手術の見学をしました。実際にガウンを着て見学する機会も数回ありました。顔面非対称に対する Le fort I 型骨切り術と下顎枝両側矢状分割術や歯肉癌切除術、観血的整復固定、上顎悪性腫瘍摘出術、頸部郭清術など多くの症例を見学させて頂き、術中にはステップ毎に術野を見せて頂きながら、何をしているか、何に気をつけるかなどを非常に丁寧に説明して下さいました。5年次の実習ではあまり見学できなかった症例などを見ることができ、また手術に関する資料も頂き非常に勉強になりました。

この選択実習にあたりご尽力頂きました先生方、非常に丁寧に指導くださいました東京医科大学の先生方へ深く感謝申し上げます。

筑波大学附属病院での選択実習に参加しました

歯学部6年 寺内 晴香

私は5月7日から25日まで筑波大学附属病院歯科口腔外科にて実習をさせて頂きました。実習ではカンファレンスや回診の参加、外来見学、アシスト、手術見学を行い、口腔内腫瘍や口唇口蓋裂、唾液腺疾患、粘膜病変、顎骨内病変など様々な症例を見学することができました。また、実習中には先生方が説明に加え、質問にも丁寧に答えてくださいました。臨床研修プログラムについてもレジデントの先生方にお話を伺うことができました。今回の実習を通して、病院内の雰囲気や医科との連携について知ることができたと共に歯科の外来・病棟が院内に併設されることで、



担当医や担当看護師と連絡を取り合いながら歯科の治療計画を立案できることやダブルライセ

ンスを持つ先生の指導により患者さんの全身状態を細かく把握しながら治療を行えることに関心を持ちました。3週間という短い間でしたが大変貴重な経験となり、実りのある実習にすることができたと思います。筑波大学附属病院歯科口腔外科の先生方、関係者の皆様、お忙しい中実習を受け入れて下さり本当にありがとうございました。今回の実習で得た経験を糧にモチベーションを高く持ち、国家試験の勉強に臨んでいきたいと思います。

日本大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 伊藤 恵吾

私は5月7日から25日までの3週間、日本大学歯学部のクラウン・ブリッジ科にて実習を行いました。実習としては、外来見学を中心に様々な症例を見学させて頂きました。歯内治療後のクラウン治療や1歯欠損に対するブリッジ治療はもちろん、多数歯欠損に対するブリッジなど自費での治療による症例まで見ることができました。特にインプラントを用いた治療が多く、多数歯欠損の患者さんに対してインプラントを土台としたフルブリッジでの補綴治療などあまり見る機会が多くない症例を見学することができたことが印象的でした。外来では見学のみならず、



介助や印象採得などをさせて頂くこともできました。また木曜日には4年生の補綴実習にも参加し、支台歯形成やプロビジョナルレストレーションの作製など、自分の希望した内容を行うことができ充実したものとなりました。

この3週間の実習を通して、5年次の臨床実習で学んだことをもとに、補綴治療についてより理解を深めることができたと思います。また他大学の歯科病院での治療を見学することで、また少し違った視点から実習に取り組むことができ有意義な時間を過ごすことができました。今回の実習にあたり、お世話になった先生方に改めてお礼申し上げます。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 6月2日(土): 昭和大学白菊の集い
- 6月9日(土): 父兄会総会
- 6月23日(土)~24日(日): 富士吉田校舍寮祭
- 6月24日(日): 富士吉田オープンキャンパス
- 6月30日(土): 昭和大学学士会例会(歯科病院)

海外留学生紹介

歯科補綴学講座 Md. Rubayet Alam Prodhan

Assalamu alaikum. I am Md. Rubayet Alam Prodhan. I am a graduate on Bachelor of Dental Surgery from Bangladesh. Working as Lecturer in a Dental unit of a Medical College named TMSS Medical College which is situated in Bogra, Bangladesh. I also practice in a private clinic as a General Dentist. But, I would like to be a researcher on molecular and cellular level research. From the core of my heart, I would like to thank Prof. Kazuyoshi Baba Sensei for giving me the opportunity to be a Research Fellow in the Department of Prosthodontics, School of Dentistry, Showa University. Their One Year Residency program designated with handsome amount of scholarship and dormitory for better living is a great opportunity for the foreigner Dentist to get enrolls themselves as researcher in the field perfection and prosperity without any problem of their daily necessities. I have chosen this research field form the realization my practical and clinical knowledge that I can treat thousands of problem of the patient but I cannot prevent them from being happen it. By my research if I can invent or discover a new era or way of preventing diseases that can help the other millions of people.



Nihon is a highly technologically and economically advanced country. Researchers and students from variety of universities and graduate schools are engaged in never ending research, development and creation of the next newest and latest theories and technology. I am hoping for a glimpse into a fascinating and completely different way of life, looking no further than Nihon.

海外留学生紹介

歯科矯正学講座 RAKOTOSON Mariette

I am RAKOTOSON Mariette, Doctor in Dental Surgery since 2015. I am currently intern of qualifying internship in odontology at IOSTM University of Mahajanga Madagascar, first year in the specialty Orthodontics, at the same time I work for Malagasy state as a doctor assistant in the Department Maxillofacial Surgery University Hospital of Mahajanga Madagascar.

I cannot forget my God who gave me so much luck to study here in Japan. I thank Showa University for

welcoming me and allowing me to deepen my knowledge in Japan for a year.

My hobbies are mainly basketball, foot-ball, swimming, jogging (I was a national athletics team when I was in high school). I like to visit tourist sites that characterize a country because they express the beauty of our world and the beauty of our God who created it.



This trip to Japan is a great experience for me. I see that Japan is a country that has assets we should adopt, like innumerable qualities, both professionally and psychologically. Before this specialty, I had devoted myself more to public health, providing free healthcare to population living in isolated areas in Madagascar, by working with charity associations.

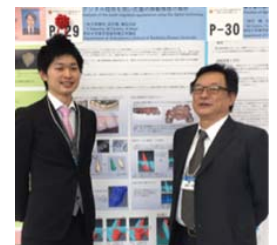
I would like to continue my way in this specialty, especially with regard to cleft lip and palate. Our access for care is not appropriate, causing the death of baby at birth.

This would be my perspective for the future.

日本デジタル歯科学会で優秀ポスター発表賞を受賞しました

大学院4年(歯科矯正学専攻) 佐久間優弥

4月14日, 15日にアイーナ岩手県民情報交流センターで開催された日本デジタル歯科学会第9回学術大会にて「デジタル技術を用いた歯の移動様態の解析」という演題で発表させて頂き, 優秀ポスター賞を受賞しました。自身初めてのポスター発表にあたり, 指導して下さった榎宏太郎教授, 同じデジタル機器に関する研究をしている田代慎先生はじめとする同期にも協力を頂き, 万全の準備をもって臨む事ができました。参加者に興味を持ってもらえるようなポスターをどのように作るか, さらに自分の研究内容の問題点を多々発見することができた学会発表でした。その一方, 他大学の先生方とお話しする中で, 自分が恵まれた環境で日々, 研究と臨床をさせて頂いているのだと改めて実感しました。



今回の経験を糧に, 更に知識や技術を身につけて微力ながら昭和大学歯学部の研究, 臨床に貢献し, 有意義な大学院生活にしていきたいと思えます。

編集後記

口腔衛生学部門 内海 明美

お忙しい中, ご寄稿頂きました皆様, ありがとうございます。